

昭和六十二年

日本思想史関係研究文献要目

凡 例

一、本要目には、昭和六十二年に発行乃至発表された日本思想史関係の単行本並びに雑誌・紀要論文を収録した。

一、本要目には、日本思想史関係の学術的な研究を選択収録することを原則としたが、一般読者向けのものも適宜収めた。

一、右のように選択した文献を、Ⅰ単行本目録Ⅱ雑誌・紀要論文目録の二部に分け、次のように配列した。

ⅠⅡ部とも、文献をその内容によって、総論・古代・中世・近世・近代に分け、さらにそれぞれに属する思想史関係研究文献を、一般・学問道徳教育方面・宗教方面・文芸美術芸能方面・政治社会経済方面・その他の項目順に分類配列した。

単行本は、書名・著者名・発行所名の順、論文は、題名・執筆者名・掲載雑誌紀要巻号数の順に記載した。

一、本要目の作成には、東北大学文学部日本思想史学研究室所属の助手・大学院学生があたった。

一、日本思想史という学問の性格上から、研究文献の選択に迷うことが多く、短時間間に作成したためもあって、文献の選択や配列に不備な点があるものと考えられる。大方の御教示をお願いする。

I 単行本目録

総 雑

日本の社会史—7 社会観と
世界像

朝尾直弘・網野
善彦・山口啓二
・吉田孝 編

岩波書店

古 代

日本文化史—彫刻の世界か
ら絵画の世界へ

笠井昌昭

べりかん社

日本史のエクリチュール

大隅和雄

弘文堂

言葉と文化

日本語・日本文
化研究会

凡人社

天皇と日本文化

村上重良

講談社

思想史の横顔

鈴木正

勁草書房

国家概念の歴史の変遷—1
国家概念と古代国家

芳賀登

雄山閣出版

日本古代の宗教と思想

田村円澄

山喜房仏書林

大系仏教と日本人—9 民俗
と儀礼 村落共同体の生
活と信仰 (宮家準編)

井上光貞
上山春平 監修

春秋社

禅と日本文化

秋月竜根編

平河出版社

神道信仰の系譜

小笠原春夫

べりかん社

大嘗祭—天皇即位式の構造

吉野裕子

弘文堂

大嘗祭の構造

平野孝国

べりかん社

日本芸能史論—1 「座」の
環境、2 「数寄」の美、
3 「手」の芸術

林屋辰三郎

淡交社

女の力 (平凡社選書110)

西口順子

平凡社

女人往生

小栗純子

人文書院

道教と古代日本
日本陰陽道史話 (朝日カル
チャーブックス)
行基と律令国家 (古代史研
究叢書)
最澄と天台仏教

福永光司 人文書院
村山修一 大阪書籍
吉田靖雄 吉川弘文館
読売新聞社編 読売新聞社

中 世

文人貴族の系譜 (中世史研
究選書)

小原仁

吉川弘文館

日本中世の国家と仏教 (中
世史研究選書)

佐藤弘夫

〃

親鸞の思想構造序説 (中世
史研究選書)

市川浩史

〃

中世的不安と教行信証の世
界

宮井義雄

春秋社

親鸞・道元・日蓮その人と
思想

菊村紀彦

大和書房

日本禅宗の成立 (中世史研
究選書)

船岡誠

吉川弘文館

禅の時代—栄西・夢窓・大
灯・白隠 (仏教選書)

柳田聖山

筑摩書房

正法眼蔵の成立史的研究

河村孝道

春秋社

中世の律宗寺院と民衆(中世史研究選書)

細川 涼一 吉川 弘文館

時宗文芸と一遍法語

金井 清光 東京美術

中世仏教説話の研究

広田 哲通 勉誠社

中世唱導文学の研究

小島 櫻礼 泰流社

キリシタンの時代―その文化と貿易

岡本 良知著 八木書店

史料日本仏教史―改訂増補版・上

高瀬 弘一郎編 永田文昌堂

近 世

京都町衆伊藤仁斎の思想形成

三宅 正彦 思文閣出版

新井白石断想

宮崎 道生 近藤出版社

新井白石の学問思想の研究

荒川 久寿男 皇学館大学出版部

徂徠学と反徂徠内なる宣長

小島 康敬 べりかん社

江戸国学転生史の研究

百川 敬仁 東京大学出版会

元禄文化(シリーズにつぼん草子)

藤井 貞文 吉川弘文館

江戸人の歴史意識(朝日選書)

守屋 毅 弘文堂

水戸史学の現代的意義(水戸史学選書)

野口 武彦 朝日新聞社

水戸藩学問・教育史の研究

荒川 久寿男 水戸史学会(刊行)

適塾と長与専斎―衛生学と松香私志

鈴木 暎一 錦正社(発売) 吉川弘文館 創元社

小関三英

半谷 二郎 旺史社

解体新書の時代―江戸の翻訳文化をさぐる

杉本 つとむ 早稲田大学出版部

日本仏教史―近世

圭室 文雄 吉川弘文館

論集日本仏教史―7江戸時代

圭室 文雄編 雄山閣出版

江戸幕府の仏教教団統制

宇高 良哲 東洋文化出版

徳川家康と関東仏教教団

神坂 次郎 中央公論社

元禄武士学―武道初心集を讀む

李 進熙 講談社

江戸時代の朝鮮通信使

李 進熙 講談社

近 代

明治維新観の研究

田 中 彰 北海道大学図書刊行会

近代知識人の天皇論

石田 圭介編著 日本教文社

日本リベラリズムの稜線

武田 清子 岩波書店

明治文化と西洋人(重久篤太郎著作集)

重久 篤太郎 思文閣出版

ザ・ヤトイ―お雇い外国人の総合的研究

嶋田 正他編 〃

天皇制国家と教育―近代日本教育思想史研究

堀尾 輝久 青木書店

大逆事件と『熊本評論』

上田 穰一 編著 三一書房

評伝堺利彦―その人と思想

岡本 尚男 オリジン出版センター

平塚らいてう―近代と神秘(新潮選書)

井手 文子 新潮社

西周に於ける哲学の成立—

蓮 沼 啓 介

神戸大学研究双
書刊行会

近代日本における法哲学
成立のためのエチュード

太 田 哲 男

同時代社

大正デモクラシーの思想水
脈

田中正造伝—嵐に立ち向か
う雄牛

ケネス・ストロ
ング著
川端康雄・佐野
正信訳

晶 文 社

末 木 剛 博

西田幾多郎—その哲学体系
2

杉 原 四 郎

春 秋 社

河上肇—人と思想

一 海 知 義

新 評 論

近代仏教史研究

小 室 裕 充

同朋舎出版

日本プロテスタント・キリ
スト教史論

土 肥 昭 夫

教 文 館

出口なお(朝日選書)

安 丸 良 夫

朝 日 新 聞 社

近代日本思想大系—4 陸羯
南集

植手通有編集・
解説

筑 摩 書 房

日本の伝統的時間意識—4
つの視点

関 口 時 正

東京工業大学人
文論叢 一三

比較思想研究の動向

浮 田 雄 一 他

比較思想研究
一三

東西精神史の一断面(日本
人とキリスト教人特集)

北 森 嘉 蔵

知識 七二

比較社会思想史研究—5
日本思想の典型：外来思
想受容のパターン—2

古 賀 勝 次 郎

早稲田社会科学
研究 三四

民間仏教解明の立場—仏教
民俗学の導入について

桜 井 徳 太 郎

宗教学論集(駒
沢大宗教学研究
会) 一三

日本仏教を支えるもの—祖
師信仰

星 野 英 紀

東洋学術研究
二六一—

国家と仏教

二 葉 憲 香

同朋仏教 二二

仏教と神祇—反日本主義的
考察

松 本 史 朗

日本仏教学会年
報 五二

日本の風土の中の神

神 保 泰 紀

”

仏教と神祇—反日本的考
察

袴 谷 憲 昭

”

天皇祭祀と即位儀礼につい
て

岡 田 井 忠 熊

日本史研究
三〇〇

「世俗化」概念の妥当性—
日本の状況との関連から

河 音 能 平

東洋学術研究
二六一—

聖と俗のとらえ方—西洋の
宗教社会学者への日本の
宗教文化による提案

D. Reid

”

家の概念—家の連続・非連
続をめぐって

三 戸 公

立教経済学研究
四〇—三

II 雑誌・紀要論文目録

総 雑

日本思想史・文化史の時代
区分と過渡期(変動期)に
ついて—下(変動期の文化
と宗教—続)

石 田 一 良

日本文化研究所
研究報告 二三

日本歴史の基礎構造

木 村 時 夫

早稲田人文自然
科学研究 三一

「国」と「家」のあいだ

原島春雄

学習院大学文学部研究年報三三三

日本の救済制度と天皇制

池田敬正

日本史研究 二九五

『新編日本史』をめぐる歴史学上の問題点—現代歴史学の課題によせて

北島万次

歴史評論 四四四

古 代

不改常典と日並知皇子命

大和岩雄

田村圓澄先生古稀記念会編『東アジアと日本』

古礼からみた内裏儀式の成立

西本昌弘

史林 七〇—二

東宮学士・文章博士春澄善繩について

長島一浩

政治経済史学 二四九

明経博士家中原・清原氏による局務請負と教育

鈴木理恵

日本の教育史学 三〇〇

大江孝周—後一条天皇信任の東宮学士

大本好信

政治経済史学 二四九

大学寮覚書—統—高明士氏の批判に答える

久木幸男

横浜国立大学教育紀要 二七

State Sponsorship of Chinese Literature in Early Japan

Robert Borgen

アジア文化研究 国際基督教大学 学報 三一—A 一六

『聖徳太子伝暦』編年考

光川康雄

『日本書紀研究』 一六

院御願寺の造営に関する一考察

市沢哲

史学年報(神戸大) 二

小野篁足利學校創建と承和の変(平安時代の東宮學士と天皇制)

橋本芳和

政治経済史学 二四九

日本古代の祭祀—秩序と反秩序

三谷邦明

基督教文化研究所研究年報 二一

相嘗祭班幣と神事

楠本行孝

神道学 一三四

持統五年十一月戊辰条について—持統大嘗祭記事

加茂正典

日本書紀研究 一六

『江家次第』大嘗祭記事の検討(上)(下)—卯日記事を中心として

高森明勅

神道学 一三四・一三五

祭式—八十鳥祭をめぐる古代における祭祀統制とその変質

岡田精司

国文学三二—二 歴史学研究 五七三

律令国家と伊勢神宮—天武朝より聖武朝に至る

川原秀夫

行動と文化 一二

八世紀の皇紀継承と伊勢神宮

脊古真哉

『東アジアと日本』 宗教研究 六〇—四

出雲国造の火継ぎ神事—その展開と変容

前川明久

神道史研究 三五—一

大神神社の創祀

田中卓

横田健一先生古稀記念会編『日本書紀研究』 一六

日吉神社と天智朝大津宮—その祭神と祭祀氏族

岡田精司

国学院大学日本文化研究所紀要 五九

一六社奉幣制の成立

岡田莊司

五

「氏神」の形成とその背景

宮崎健司

研究紀要(大谷大・院) 四

最澄の思想と教団形成―天台の平等の継承

中川修

仏教史学研究 三〇―二

日本古代の王権と仏教

本郷真紹

日本史研究 二九五

「往法華経」における伝教大師の著作の特徴について

今井真孝

日蓮教学研究 紀要 一四

仏教の受容をめぐる―物部氏と蘇我氏との関係

田中卓

神道史研究 三五一―四

最澄と本覚思想―序の序(人間の死と超人) 特集

栗田勇

文芸 二六一―一

物部氏と宗教

泉谷康夫

日本書紀研究 一六

最澄と天台本覚思想―「願文」における戒と六根相似の位について

〃

〃 二六一―二

三論から法相へ―その推移と歴史事象

森田康之助

〃

〃

鶴岡静夫

〃

東大寺の大仏造営と八幡神について

宮城洋一郎

日本仏教学会編 『仏教と神祇』

平安朝における天台宗と僧綱制―天台僧からの僧綱補任について

岡野浩二

史聚 二二二

唐代仏教と奈良仏教との比較―国家仏教の特質を中心として

王金林

『東アジアと日本』

延暦僧録と「日本高僧伝要文抄」の関係について

平岡定海

仏教学研究 四三

僧尼令の焚身捨身の禁と火定及び渡海往生

滝川政次郎

国学院雑誌 八八―七

空海の六大思想

村上保寿

密教文化 一五九

古墳と黄泉国―死穢観の変遷

土生田純之

日本書紀研究 一六

空海における華嚴教学の把握―教判論を中心として

米田達也

南都仏教 五八

「鎮魂(ミタマシヅメ)」に関する一考察―下

源辺勝義

神道学 一三三

密教と道教の周辺

宮崎忍勝

密教文化 一五九

役小角と一言主神

天野富夫

御影史学論集 一二

怨霊の幻影―五大堂と撰関家藤原氏

竹居明男

日本思想史学 一九

栖霞観考―平安初期道教的思考形態の展開

松田智弘

竜谷史壇 八九

藤原実資の観音信仰について

三橋正

研究論集(大正大・院) 一一

高雄の天台法会と最澄―平安仏教形成の端緒

高木神元

論叢(高野山大) 二二

平安貴族における神祇信仰と仏教信仰―道長と実資の多元的信仰を中心として

華園聡磨

日本仏教学会年報 五二

伝教大師の山修山学と末法思想

武覚超

印度学仏教学研究 三五―二

平安貴族の夢と現実―藤原行成の権記を中心に

河北騰

独協大学教養諸学研究 二二二

最澄と維摩経

田村晃祐

東洋学研究 二二

〃

〃

〃

小野僧正仁海像の再検討― 撰関期の宮中真言院と醍 醐寺を中心	土屋 惠	青木和夫先生還 曆記念会編『日 本古代の政治と 文化』	記紀神話の伏流	むしやこうじ・ みのる	『日本書紀研究』 一六
日本古代に於ける仏教仏道 の一考察―とくに「日本靈 異記」に見られる伝道者 と壇越について	朝 枝 善 照	竜谷大学仏教文 化研究所紀要 二六	天神と二種の地上の混沌― 日本・中国神話比較の試 み	大林 太 良	〃
古代宗教と女性原理―比較 宗教学的考察―1	岡 野 治 子	専修人文論集 四〇	二つの出雲神話―記紀と風 土記と	岡 田 精 司	明日香風 二二
平安女性と神祇信仰―撰関 期神祇信仰の一特質	並 木 和 子	国学院大学日本 文化研究所紀要 五九	日本王権神話の宇宙論― 「日向三代」を中心に	魯 成 煥	待兼山論叢(大 阪大・文) 二一
律令制支配と神仏習合	熊 谷 保 孝	政治経済史学 二五三	日本の天地開闢説	ヴィエスワフ・ コタンスキ著 松井嘉和訳	『神道及び神道 史』
律令国家における神仏習合	白 山 峻 介	湘南史学 九	「古事記」のホムチワケ説 話に見る神話的時間の反復 性	吉 田 敦 彦	国語と国文学 六四―五
山王信仰の発展に関する一 考察―良源の治山期を中心 として	佐 藤 眞 人	大倉山論集 二一	古事記上巻の「神話」につ いて	吉 井 巖	日本書紀研究 一六
源信「往生要集」における 人間観	宮 敏 子	紀要(東北生活 文化大学・三島 学園女子短期大 学) 二二	伊吹山の神―倭建命の登攀 ムスヒの神の名義をめぐつ て	守 屋 俊 彦	古事記年報二九
源信と「維摩經」佛道品偈	兼 子 鉄 秀	天台学報 二九	古事記と搜神記	神 野 志 隆 光	紀要(東京大・ 教養) 八五
源信伝の諸問題	速 水 侑 秀	『東アジアと日 本』	日本書紀神代卷の一書につ いて	神 田 秀 夫	古事記年報二九
往生要集の倫理観	福 原 蓮 月	印度学仏教学研 究 三五―二	「日本書紀」と百済系史料	山 田 英 雄	『日本書紀研究』 一六
室生寺と竜穴神―室生寺の 神宮寺的性格	竹 居 明 男	『日本書紀研究』 一六	日本書紀と元興寺縁起	山 尾 幸 久	立命館文学 五〇〇
薬師信仰と牛頭天王	三 崎 良 周	天台学報 二九	「万葉集」の思想	水 野 柳 大 郎	『東アジアと日 本』
平安期諸国文殊会の成立と 展開について	上 田 純 一	日本歴史 四七五		岩 崎 允 胤	文化評論三一九

近江荒都歌における皇統譜の神 遠山一郎 説林(愛知県立大) 三五

古代歌人の自然観―上―「萬葉集」より 木幡瑞枝 紀要(東京女子大・附属比較文化研) 四八

「陰陽五行説」の影響―萬葉集を主に 伊原昭 日本文学研究(梅光女学院大・学日本文学会) 二二

言霊論―解釈の転回 伊藤益 日本思想史学 一九

古代の簡と言霊信仰 前田晴人 社会科学研究(大阪府高・社会科研) 二九

罪人の心象風景―始原としての日本霊異記 仲井克己 国文学研究(早稲田大学国文学会) 九二

「日本霊異記」の一考察―現報のあらわれ方について 曾我部順子 女子大国文 一〇一

「日本霊異記」の女性観にみる「父母恩重經」の投影―八疑偽経典受容史の一面 増尾伸一郎 東方宗教 六九

因縁の時空―日本霊異記の説話と表現 森正人 国語と国文学 六四―五

「うつほ物語」の空間―吹上の時空をめぐって 室城秀之 //

平安文学とものけ―日本古代の宗教と文学(平安朝)△シンポジウム▽ 三苦浩輔 基督教文化研究所研究年報 二二

『今昔物語集』における「穢」「不浄」の意味するもの 高橋貢 国文学研究(早稲田大学国文学会) 九二

源氏物語の密通への応報と史記―儒仏の交渉 鬼束隆昭 基督教文化研究所年報 二一

「住吉大社神代記」にみる住吉明神の神威と神域―源氏物語に現れた住吉神信仰の背景として 豊島秀範 紀要(弘前学院大・短大) 二三

「源氏物語」と住吉信仰 小山利彦 専修国文 四一

女人往生論と宇治十帖 小林正明 国語と国文学 六四―八

源氏物語の一对の光―王権譚の生成 河添房江 文学 五五―五

遁世者・明石の入道―「源氏物語」における愛と遁世思想との相剋 井手恒雄 『東アジアと日本』

大鏡の政治思想 加納重文 女子大国文 一〇一

「成尋阿闍梨母集」の仏教思想―様式への傾斜 長嶋正久 仏教文化研究所研究紀要 一七

政治・宗教と文学―大江匡房の述作活動の一面(院政期文学史の構想) 吉原浩人 国文学 解釈と鑑賞 五三―三

西行と伊勢信仰(仏教と神祇) 高木きよ子 日本仏教学会年報 五二

上品上生来迎図の成立―その思想と性格 岩田茂樹 文化学年報 三六

信貴山寺居住僧の芸術活動と信貴山縁起絵巻 竹居明男 //

「天皇」号の始用時期をめぐって 大和岩雄 『日本書紀研究』 一五

六国史の祥瑞記事について 柄浩司 中央史学 一〇

日本律令国家祭祀の等級について 矢野健一 史苑 四六一・二

撰関・院政期における本朝意識の構造 小原仁 佐伯有清編 『日本古代中世史論考』

撰関期における「氏」・「家」―「小右記」にみられる実資を中心として 服藤早苗 『日本古代の政治と文化』

古代日本における障害者観の形成 沼田武彦 日本史論叢 一一

平野孝国著『大嘗祭の構造』 森田康之助 神道学 一三五

〃 津城寛文 宗教研究 六一―二

〃 桜井治男 神道史研究 三五―三

西口順子著『女の力―古代の女性と仏教』 上田さち子 ヒストリア 一一九

中世

中世の歴史叙述について 大隅和雄 史学論集(駒沢大) 一七

神皇正統記―理想と現実 長谷川端 国文学解釈と鑑賞 五二―九

鎌倉末・南北朝期における明法家達 利光三津夫 法学研究(慶応大) 六〇―六

南北朝正閏問題の教育史的意義 小山常美 日本の教育史学 三〇

中世社会における「体制仏教」と「体制外仏教」―国家権力と仏教との基本的構造 佐々木馨 『日本古代中世史論考』

中世史部会共同研究報告・中世律宗と国家―鎌倉末期の政治・社会状況の中で 細川涼一 日本史研究 二九五

中世得度制について―官僧・遁世僧体制の成立 松尾剛次 三浦古文化 四一

中世仏教と社会・国家 平雅行 日本史研究 二九五

中世の宗教文書の分析―起請文を素材として 日隈正守 九州史学 八八

天皇祭祀と即位儀礼について(天皇制と祭祀)―特集 座談会―岩井忠・熊岡田精司・河音能平 日本史研究 三〇〇

中世の即位儀礼と仏教 上川通夫 〃

△現身往生▽の流行と思想 中前正志 国語国文 五六―二

わが国の神仙思想と修験道 村山修一 『神道及び神道史』

解脱上人貞慶の阿弥陀仏信仰について 富村孝文 琉大史学 一五

解脱房貞慶と悪人正機説 平雅行 横田健一先生古稀記念会編『文化史論叢』下

「高野山往生伝」と如寂 志村有弘 紀要(相模女子大) 五一

東国武士と法然浄土教―谷保の住人津戸三郎の場合 亀山純生 紀要(東京農工大・一般教育) 二二三

法然の「要集釈」と「大経釈」の成立前後の問題
服部 正 穂
印度学仏教学研究 三六一—

法然と親鸞
渡辺 顕 正
印度学仏教学研究 三六一—

慈円と親鸞
二葉 憲 香
『東アジアと日本』
親鸞教学 四九

清浄有戒者
加来 雄 之
真宗研究 三二

「聖人ノ御罰」ということ
遠藤 一
真宗研究 三二

授記を通してみた親鸞教学の特色
浅野 教 信
真宗学 七五・七六

親鸞における自力の意義
白川 春 顕
〃

法然より親鸞における諸行廃捨の展開
浅井 成 海
〃

親鸞聖人における王法と仏法——「化巻」を中心として
普賢 晃 寿
〃

親鸞と「悲華経」
菅野 隆 一
印度学仏教学研究 三六一—

教行信証の思想序説(プロレゴメナ)——選択集と教行信証
加茂 仰 順
真宗研究 三一

親鸞の人間観——神道の人間観との比較において
渡部 真 弓
国学院雑誌 八七一—

親鸞における現世往生の思想
信楽 峻 磨
竜谷大学論集 四三〇

「教行信証」序説——親鸞の「信」の構造
岡 亮 二
真宗学 七五・七六

親鸞の仏道観
嬰木 義 彦
〃

親鸞の神祇観
細川 行 信
『仏教と神祇』

親鸞の神祇観——九月二日「念仏の人々の御中へ」の消息を手がかりとして
田代 俊 孝
日本仏教学会年報 五二

法然門下の関東武士(良忠上人)の特集
小此木 輝 之
仏教文化研究 三二

東国浄土教における良忠上人——付称名寺蔵金沢文庫保管鎮西義典籍解題
日置 孝 彦
〃

良忠上人における口伝と決答——「決答授手印疑問鈔」を中心に
大谷 旭 雄
〃

覚如における悪人正機説の展開
矢田 了 章
真宗学 七五・七六

在覚義絶の原因——特に真宗教学史よりの考察
細川 行 信
真宗研究 三一

蓮如の神祇観理解を問いかえす
池田 勇 諦
〃 三二

真宗教団史の中の歎異抄
佐々木 英 彰
〃 三一

横曽根報恩寺の成立と性信・證智
今井 雅 晴
地方史研究 三七—二

戦国時代の横曽根報恩寺と證了
〃
茨城県史研究 五九

鎌倉後期南北朝期における横曽根門徒の動向——東国親鸞教団展開史の研究
植野 英 夫
〃 五八

西山における念仏と神祇
中西 隨 功
日本仏教学会年報 五二

比較思想から見た「正法眼蔵」
菊川 忠 夫
幾徳工業大学研究報告A 人文社会科学編一一

「永平広録」における時の性格	茅原正	宗教学論集(駒沢大学) 一三	日蓮聖人と真言密教	小松邦彰	紀要(日蓮教学) 一四
道元禅師の受戒と伝戒考	吉田道興	印度学仏教学研究 三六一—一	日蓮宗における祈禱の性格——「修法師」の考察を中心として	長谷部八朗	宗教学論集(駒沢大学) 一三
修と証のあいだ——道元の疑団をめぐって	井上克人	南都仏教 五八	日蓮宗における三十番神信仰の受容	宮川了篤	日本仏教学会年報 五二
「立正安国論」考	佐藤弘夫	日本史研究 三〇四	日蓮宗における三十番神信仰について	坂輪宣教	〃
虎関師錬の思想	市川浩史	日本思想史学 一九	日蓮の師、俊範の未紹介資料について——初期日蓮教学形成の背景	窪田哲正	仏教学 二三
臨済禅の神祇思想	鈴木省訓	日本仏教学会年報 五二	日蓮における日本史の知識と認識——聖徳太子・道昭・和氣清麻呂	高木豊	『東アジアと日本』
禅宗寺院の行事と庶民信仰について	渡部正英	宗教学論集(駒沢大学) 一三	金綱集の一考察——金綱集(浄土宗見聞上・下)と法華問答正義抄(付浄土宗)について	中条暁秀	印度学仏教学研究 三六一—一
「元亨釈書」と神祇	大隅和雄	紀要(東京女子大附属比較文化研) 四八	再生——来迎について——一遍上人の宗教を中心として	早坂博	東北福祉大学紀要 一二
日蓮聖人の「立正安国論」の意義についての考察	小沢恵修	紀要(日蓮教学) 一四	時宗と神祇——一遍、一向、真教	長島尚道	『仏教と神祇』
日蓮聖人の不軽菩薩観——佐前期の遺文にみられる記述を中心として	松脇行真	〃	初期時宗教団と伊勢神宮	今井雅晴	地方史研究 三七—四
日蓮聖人における「逆罪」の特質——鎌倉時代の社会構造の中で	原慎定	〃	初期叡尊の宗教的環境	追塩千尋	史流 二八
日蓮聖人における末法観の一考察	中村晋也	〃	叡尊の文殊信仰について	宮城洋一郎	印度学仏教学研究 三六一—一
日蓮聖人書簡にみる「説話」について	龍門義通	〃			

「山家集」に見る山岳聖域
大峰の構造

小田 匡保

史林 七〇—三

神仏習合理論の展開

大隅 和雄

国文学解釈と鑑賞 五二—一九

無住『雑談集』について—
「愚老述懐」の段をめぐる

大隅 和雄

日本思想史学 一九

中世における神仏関係の一面—
仏法禁忌を中心に

池見 澄隆

日本仏教学会年報 五二

『沙石集』における女性観—
鎌倉時代の基層的信仰と仏教

野村 育世

民衆史研究 三三

神仏習合—諸社に於ける本願と社家の出入をめぐる—
(前近代の信徒集団と諸権力の特集)

菊池 武

地方史研究 三七—二

北条時政の信仰

今井 雅晴

仏教史学研究 三〇—一

本願所の歴史—その活動と変遷

普賢 保之

日本歴史 四六六

三善為康の思想と信仰

小原 仁

年報中世史研究 一二

往生について

印度学仏教学研究 三六—一

神道五部書の成立

鎌田 純一

皇学館史学 二

石造品からみた中世の地藏信仰

小泊 立矢

大分県地方史 一二四

樵談治要の成立とその神道観

白山 芳太郎

皇学館論叢 二〇—四

中世南都の宗教と芸能—信如尼と若宮拝殿巫女をめぐる—
(文学の「時空」)

阿部 泰郎

国語と国文学 六四—五

一条兼良公事根源の成立とその神道観

岡田 芳幸

史料(皇学館大) 九—

寺院縁起に見られる天狗伝承のモチーフとその意味

山岡 隆晃

宗教学論集(駒沢大学宗教学研究会) 一三

清原宣賢の研究序説—清原家の地位と環境をめぐって

岡田 芳幸

皇学館史学 二

神道の女性観—女人往生思想との比較において

渡部 真弓

神道宗教 一二七

芸能と「神」—盲人芸能者と童子神

福島 邦夫

国文学解釈と鑑賞 五二—九

山王神道の教理

佐藤 眞人

国文学解釈と鑑賞 五二—九

両子寺縁起異聞

柴田 光彦

日本歴史四七三 『文化史論叢』下

「溪嵐拾葉集」の諸本—享史的観点からの分類

田中 貴子

国語国文 五六—六

小野仁海と中世王権の成立—
「溪嵐拾葉集」所収

〃

国文学攷 一一五

「祇園女御説話」の背景—
続攷

〃

国文学攷 一一五

豊臣家臣団とキリシタン—リスボンの日本屏風文書を中心—
神道文芸の軌跡と展望—
中世の散文を中心に

村上 学

国文学解釈と鑑賞 五二—九

激動期の本願寺能楽―下間少進法印仲之を中心に	籠谷 真智子	真宗研究 三一	平家一門の妄執と救済	窪田 高明	季刊日本思想史 二八
「難波百首」と慈円の和歌観―中世的和歌観の一樣相	山本 一	紀要(金沢大教育・人文・社会・教育科学) 三六	修羅と鎮魂	鳥居 明雄	〃
慈円の「述懐百首」考―我が身・我が心・我が表現をめぐって	鈴木 正道	紀要(弘前大・教育) 五七	「清経」の主題―あはれと修羅と	八木 公生	〃
「梅松論」の成立に関する一考察	武田 昌憲	中世文学 三二	景清伝説の一樣態―「景清」シテの「名」をめぐって	遠山 敦	〃
中世文芸と発心―「美しいもの」の否定をめぐって	井手 恒雄	日本文芸学 二四	再会の現象学―「芦刈」の意味空間	菅野 覚明	〃
発心集における数寄と執心	松下 道夫	文学・語学 一三	世阿弥における芸論と謡曲の思想との接点―「五音曲条々」「金鳥書」を中心に	相良 亨	〃
高野山と中世文芸	石原 清志	密教文化一五九	参詣曼茶羅と文芸―清水寺参詣曼茶羅の読解	黒田 日出男	国文学解釈と鑑賞 五二―九
中世和歌と「神」	久保田 淳	国文学解釈と鑑賞 五二―九	春日権現験記絵	高木 豊	〃
兼好における自然	阿部 武彦	文芸研究一一四	渡唐天神画像にみる禅宗と室町文化	原田 正俊	『文化史論叢』下
兼好の文芸意識	生田 勝彦	〃	侍の規範―鳥津忠良の「伊呂波歌」(一五四五年)の翻訳と解説	Jesus López Gay, S. J. 著 井出 勝美 訳	キリシタン研究 二七
兼好の自然観と人間観をささえたもの	安部 元雄	〃	室町幕府禅律方について	岩元 修一	川添昭二先生還暦記念会編『日本中世史論攷』
「太平記」と中世律僧	砂川 博	日本文学 三六―一二	中世における「場」の問題をめぐって(86総会記念講演録)	綱野 善彦	神奈川地域史研究 五
金刀比羅本保元物語の規範意識	〃	紀要(北九州大・文)開学40周年記念号	日本中世における国家領域観と異類異形	伊藤 喜良	歴史学研究 五七三
中世芸術論における「諸道」について	石黒 吉次郎	専修人文論集 四一	中世王権の構造	近藤 成一	〃

日本中世社会と「天皇制」

峰岸純夫

人民の歴史学 九一

惺篤学における客体的本質と主体的本質

遊佐教寛

『文化史論叢』下

日本中世論ノート『中世的世界の形成』を読む

大谷瑞郎

論集(武蔵大) 三四一六

楽の思想―益軒とルソーの場合

伊藤友信

比較思想研究 一三

中世的文書主義成立に関する一試論―国司庁宣の副状について

上杉和彦

日本史研究 二九四

芦東山の晩年―書翰を中心として

八巻一雄

岩手史学研究 七〇

女性名から見た中世の女性の社会的地位

飯沼賢司

歴史評論 四四三

村士玉水について―伊勢崎藩学習堂の学問支柱

須長泰一

群馬文化二二二

早川庄八著『中世に生きる律令―言葉と事件をめぐって』

水戸部正男

法制史研究 三七

古学学統論弁

鈴木淳

国学院雑誌 八八―六

黒田日出男著『境界の中世 象徴の中世』

斎藤利男

史学雑誌 九六一一

「職分」としての「武」―山鹿素行の思想に関する一考察

田中光郎

論集きんせい(東京大)一〇

網野善彦著『日本中世の非農業民と天皇』

脇田晴子

歴史学研究 五六六

伊藤仁斎の「恕」について

豊沢一

山口大学文学会誌 三八

網野善彦著『異形の王権』

牧英正

法制史研究三七

東涯「家乗」の起草年代に関する一考察

山根陸宏

ビブリア 天理図書館報 八八

池見澄隆著『中世の精神世界―死と救済』

佐藤弘夫

日本思想史学 一九

伊藤東涯日記の考察―東涯「家乗」・仁斎「初見帳」との関連を中心として

平石直昭

社会科学研究所(東京大・社会科学研) 三九―一

近世

異ともの瀬踏み―日本・中国の概念比較(対談)

相良雄三

文学 五五―一

荻生徂徠「論語徴」についての一考察―孔子が「古言」を引くとする説を中心に

大木弥生

中国文学論叢(桜美林大) 一三

徳川初期における中国儒学「心学」の受容―「心学・心法」の問題を中心として

源了圓

アジア文化研究 国際基督教大学学報三―A 一六

「聖人の道にて今日の国天下も治り候事に候」―荻生徂徠

石塚美幸

北大史学 二七

近世初頭の社会と儒者

柴田純

日本史研究 三〇―一

荻生徂徠の「樂書」校閲とその所産

陶徳民

待兼山論叢(大阪大・文) 二一

徂徠学における発達観念に 関する一考察―「気質」と 「職分」の関係の問題を 手がかりに	河原国男	教育学研究 五四―四	『新論』の尊王攘夷思想― その術策性をめぐって	前田勉	日本思想史研究 一九
荻生徂徠『政談』流布の過 程において生じた内容的変 化について	辻達也	人文科学年報 (専修大・人文 科学研) 一七	広瀬淡窓と九州の儒者 緒 論―同時代の交流について 大塩中斎と頼山陽―中斎の 頼聿庵宛書簡より	三沢勝巳 頼祺一	大倉山論集二一 大塩研究 二二
荻生徂徠の人間論に向けて	黒住真	中国古典研究 三二	佐藤一斎の思想と教育―4	山縣明人	政治経済史学 二五〇
荻生徂徠の「學」解釋	末木恭彦	〃	安井息軒の「辨妄」につい て―下	清水直美	中国文学論叢 (桜美林大) 一三
「古文辭の學」から『政 談』へ	中村春作	〃	横井小楠における新国家像	イサム・R・ハ ムザ	日本思想史学 一九
太宰春臺の「誠」解釋	沢井啓一	〃	横井小楠の学統についての 一考察	檜原孝俊	会報(熊本近代 史研) 二〇〇
富永仲基的徂徠批判論	陶徳民	〃	横井小楠の思想周辺に關す る一考察―桜園・小楠の接 点と訣別	堤克彦	〃
秋田藩の農民政策と安藤昌 益の学問否定―『内経』理 解の源泉	若尾政希	季刊日本思想史 二九	横井小楠と耶蘇教―有道論 としてのキリスト教理解	岡村遼司	社会科学討究 (早稲田大・大 隅記念社会科学 研) 三三一―一
三浦梅園の聲主論	岩見輝彦	日本中国学会報 三九	岡松麴谷のこと	木南卓一	帝塚山大学論集 五八
近世後期史学史と『逸史』	高橋章則	日本思想史学 一九	池田草庵早期の「中庸」 ・「大学」の解釈について	町田三郎	中国哲学論集 一三
山片蟠桃の古代史観	有坂隆道	『文化史論叢』 下	吉田松陰の教育実践と思想 (11)	村田甚吾	紀要(人文・社 会科学 帝塚山 短大) 二四
日本考証学派の民衆観―松 崎謙堂の「新民」解釈と 現実認識―	小林幸夫	日本思想史学 一九	日本の近代化と儒教的主体	宮城公子	日本史研究 二九五
近代日本における考証学派 の評価	〃	日本史学集録 (筑波大) 四			
藤田幽谷の経世思想―農地 改革と価値意識	八木清治	日本思想史研究 一九			

『心学五倫書』再考

石毛 忠

『神道及び神道史』

本居宣長の儒教観—学問形成上の一問題として

小山内 めぐみ

国学院雑誌 八八—六

葉隠の成立と基調

池田 史郎

藤野 保編 『統佐賀藩の総合研究』

宣長学の方法—神・言葉・心の関連について

長田 康平

国史学研究(龍谷大) 一三

赤穂義士論に関する考察—中—近世武士道論序説

田中 佩刀

明治大学教養論集 二〇三

本居宣長と伊勢松坂商人と宇治・山田の神官たち

芳賀 登

地方史研究 三七—四

渡辺華山手記「客退紀聞」について

小沢 耕一

紀要(愛知大学総合郷土研) 三三二

平田篤胤の学問

鎌田 純一

神道古典研究会報 九

高野長英の思想と行動—1

芳賀 守

紀要(千葉商大) 二四—四

神は物言はず—平田国学と近代

小林 広一

早稲田文学 一三五

箕作省吾と坤輿図識の世界

山口 興典

岩手史学研究 七〇

大國隆正の人間形成観に関する一考察—「四魂」と「三道三欲」説を中心に

内山 宗昭

工学院大学研究論叢 二五

日高涼台の蘭学

吉田 忠

研究報告(東北大・日本文化研) 二二三

垂加神道樹立の苦悩

近藤 啓吾

神道史研究 三五—三

長崎養生所の設立をめぐる長崎奉行の施策と幕府評議—幕末期改革派官僚岡部長常の洋学導入

沼倉 延幸

紀要(青山学院大・文) 二二八

度会延佳と山崎闇齋—「倭姫命世記」をめぐる

〃

神道宗教一二七

近世の国学政治運動思想における「主体」性形成

寺脇 恵

ヒストリア 一一七

熊沢蕃山と神道および「社家神道」

宮崎 道生

『神道及び神道史』

荷田春満の業績と史的位置

内野 吾郎

国学院雑誌 八八—六

越後国における橘三喜の活動

永井 康之

神道宗教一二七

多田義俊の日本書紀神代卷研究—著者の整理を中心に

古相 正美

神道学 一三五

神道学者としての松下見林—その神社研究をめぐって

福井 款彦

神道史研究 三五—三

多田南嶺の学と芸

浅野 三平

紀要(日本女子大・文) 三八

大神貫道と神道講釈

岡田 哲

国学院雑誌 八八—六

現代江戸学の原質—本居宣長におけるポストモダンとプレモダン

野口 武彦

新潮 八四—六

市川匡に就いて—「まがのひれ」前後の足跡

小笠原 春夫

『神道及び神道史』

徳川吉宗御用漢籍の研究― 近世日本の明清史研究序 説	川勝 守	紀要（九州文化 史研） 三二	キリシタン問答書の表現と 思想	飯 峯 明	基督教研究 四八一―二
尾張藩学史序説―藩校明倫 堂をめぐる	安藤 直太郎	郷土文化 四二―一	最初の高麗人イエズス会士 ―殉教者・福島ガヨ（一 五七一―一六二四年）	Juan G. Ruiz de Medina S. J. 著 佐久間 正訳	キリシタン研究 二七
弘道館と教育理念	井上 義 巳	『統佐賀藩の総 合研究』	日本人の精神史の中の「切 支丹」考 補遺―2	水 林 澄 雄	明治学院論叢 四〇六
適塾の教育精神―緒方洪庵 のヒューマニズム	越 後 哲 治	紀要（国際仏教 大・文・短大） 二〇	近世真宗思想史の研究―永 照寺西吟の思想について	平 田 厚 志	紀要（竜谷大・ 仏教文化研） 二六
近世私塾の勃興と衰退のメ カニズム―2	藤 村 正 司	紀要（新潟大・ 教育） 二九―一	近世真宗教学史における信 解釈の問題	信 楽 峻 磨	真宗学 七五・七六
石田梅岩の「儉約」―経済 思想史からの考察	川 口 浩	こころ三一―一	近世末寺における石山合戦 の動向―近江国出庭村西光 寺の場合	奥 山 芳 夫	鷹陵史学 一三
中澤道二私新抄―5・6	木 南 卓 一	帝塚山大学論集 五五・五六	近世浄土宗教団における 「捨世」の宗風について	大 橋 俊 雄	『東アジアと日 本』
尊徳とその時代	児 玉 幸 多	二宮尊徳生誕二 百年記念事業会 報徳実行委員会 編『尊徳開頭』	近世往生伝に見る2、3の 問題	圭 室 文 雄	教養論集（明大） 二〇二
二宮尊徳の神道論と儒教論	多 田 顕	経済論集（大東 文化大） 四四	盤珪永琢「般若心経鈔」考	鈴 木 格 禪	印度学仏教学研 究 三六一―一
日本人の自然観―二宮尊徳 の天道・人道と秩序	小 林 等	哲学（三田哲学 会） 八五	江戸期曹洞宗における楞嚴 ・楞伽の註釈について	佐 々 木 章 格	〃
近世後期における地方農民 の精神生活―とくに宗教生 活を中心に	豊 島 修	研究年報（大谷 大） 三九	曹洞宗寿昌派の成立と展開 ―寿昌正統録本文の紹介、 附年譜	永 井 政 之	駒沢大学仏教学 部論集 一八
東三河の地方知識人	芳 賀 登	紀要（愛知大・ 総合郷土研） 三三	良寛和尚の愚・念仏―その 越後人的特質をめぐる	新 井 勝 龍	〃
			曹洞宗教団における「白山 信仰」受容史の問題―2	佐 藤 俊 晃	宗学研究（駒沢 大学曹洞宗学 研） 二九

浄慧と近世地藏説話集―

渡 浩 一

説話文学研究 二二二

「延命地藏菩薩経直談鈔」の背景

豊国社の造営に関する一考察

三 鬼 清一郎

名古屋大学文学部研究論集九八

小谷三志と「不二道実行御伝」

須 賀 源 蔵

神道及び神道史 四五

大山道と大山信仰

石 上 七 輪

紀要(東京女学館短大) 九

近世陰陽師の活動と組織―若杉家旧蔵の一史料の紹介(資料)

林 淳

紀要(愛知学院大・文) 一七

幕末期の神職補任に関する一史料

松 崎 彰

地方史研究 三七―二

出雲お国像と民衆意識

浅 野 美和子

歴史評論四四九

近世武芸伝書における事理論について(その2)

湯 浅 晃

学報(天理大) 三八―三

近松浄瑠璃における「忠」―上

佐々木 久春

紀要(秋田大・教育) 三七

蜀山人の時代(蜀山人とその周辺)

大 石 慎三郎

文学 五五―七

近世歌論の体系的認識―1

実 方 清

日本文芸研究 三八―四

蕪村の文芸観

萩 原 省 吾

日本文芸学二四

小林一茶の「遊民」意識に関する経済思想的考察

青 木 美智男

紀要(日本福祉大) 七一

小林一茶の国学的自国意識と世直し願望

〃

〃 七二

江戸幕府による差別の制度化

牧 英 正

法学雑誌 三三―三

近世被差別民の生活と思想―徳島藩を中心として

川 人 正 人

鳴門史学 一

キリシタン禁制政策の展開―徳島藩を素材として

板 東 英 雄

〃

近世後期における海防政策について―寛政期の諸政策を中心として

正 戸 千 博

史報 八

佐賀藩における政治思想と政治形態―文化・文政期を中心として

高 野 信 治

紀要(九州文化史研) 三二

幕末の政治思想と政治動向

山 口 宗 彦

『続佐賀藩の総合研究』

幕末における国民意識と民衆

鎌 田 道 隆

紀要(奈良大) 一六

長州藩の公武合体運動

大 嶽 靖 之

学習院史学二五

幕末の加賀藩勤王家―西南雄藩との対比から

ロバート・G・フラーシエム著

地方史研究 三七―三

嘉永二年の開国論―貿易容認論と祖法相対化の論理

藤 田 覚

日本歴史四六四

万延遣米使節におけるアメリカ体験の諸相―文化接触と対応の構造―2

岡 林 伸 夫

同志社法学 三八―六

渡辺浩著『近世日本社会と宋学』

本 郷 隆 盛

史学雑誌 九六―四

松本三之介著『近世日本の思想像―歴史的考察』

寺 脇 恵

史学雑誌 九六―二

近藤啓吾著『山崎闇斎の研究』

牛 尾 弘 孝

中国哲学論集 一三

頼祺一著『近世後期朱子学派の研究』

浅田雅直

史学研究一七四

福沢諭吉の文明史観

下崇道・王守華
著
樽本照雄訳

大阪経大論集
一七六

近代

近代における中日交流文化について

王暁秋著
清水稔・里見信也・劉健強共訳

鷹陵史学 一三

日本近代史学史における文化の問題

岩井忠熊

歴史評論四五三

日欧比較近代化論の争点をめぐって―2

鈴木直

紀要(東京医科歯科大・教養) 一七

神代復古誓願運動の思想―日本近代成立の平等主義的ラディカリズム

鶴巻孝雄

歴史評論四五二

元田永孚の人と学―実学の本義に触れて

山崎道夫

東洋文化(無窮会) 復刊五九

森有礼の啓蒙と教育(下)

沖田行司

人文学(同志社大・人文) 一四四

西周の哲学的著述における「自然の理」の位相

本間邦雄

紀要(法政大・教養) 六二

「百学連環」の英文原資料について―3

小玉斉夫

紀要(駒沢大・外) 一六

加藤弘之と李大釗―その思想的影響について

後藤延子

信大史学 一二

福沢諭吉における政治原理の構造と展開―西欧近代思想導入との関連―4

安西敏三

甲南法学 二八―二

幕臣福沢諭吉の政治思想発展過程―「西洋事情」成立の背景として

長尾政憲

法政史学 三九

福沢における相対主義・道徳・宗教

渡辺一

立命館法学 一八八―一九〇

5 「文明論之概略」ノート―

正田庄次郎

紀要(北里大・教養) 二一

福沢諭吉研究ノート―9・10 「文明論之概略」の草稿の考察―5・6

進藤咲子

東京女子大学紀要論集三七―二・三八―一

啓蒙期福沢諭吉論―中明六社との関連で

露口卓也

人文学(同志社大学人文学会) 一四四

「明六雑誌」における尊攘論批判

戸沢行夫

史学 五七―二

明六雑誌の伝播と読者層―都市民権

宮村治雄

東京都立大学法学会雑誌 二八

中江兆民における「ルソール」と「理学」―「理学鈎玄」の成立過程の一考察

福鎌忠恕

紀要(東洋大・社会) 二四―二

井上円了と西洋思想―円了における西洋哲学

森章司

東洋学研究二二

井上円了と真宗大谷派教団

安藤義郎

研究紀要(日大・経済・一般教育・外国語・保健体育) 五

アーンレスト・サトウの平田篤胤研究

安藤義郎

研究紀要(日大・経済・一般教育・外国語・保健体育) 五

中村敬宇とJ・S・ミル
価値・自由・平等をめぐ
る両者の思想について
津軽の英学―5 ジョン・
イングと弘前バンド

荻原 隆
山 本 博
山 田 芳 則
内 田 芳 明
高 橋 正 明
小 野 裕
関 秀 志
沖 田 行 司
小 宮 彰
北 野 裕 通
川 合 道 雄
橋 本 芳 契
中 村 雄 二 郎
杉 尾 玄 有

社会科学討研
(早稲田大・社
研) 三三―二
文化紀要(弘前
大・教養) 二六
史学論集(就実
女大) 二
エコノミア九三
早稲田大学史紀
要 一九
キリスト教学 二九
同志社談叢 七

現在が現在自身を限定する
―西田幾多郎の歴史観
経験と実在―西田幾多郎
「善の研究」を読む
吉野作造中国論おぼえ書き
三木清の行為の哲学と構想
力の論理―下
和辻哲郎の家族論
和辻「倫理学・中巻」の初
版と修正版とを対比して―
批判的論考ノート―3
道会機関誌「道」の「解題」
ならびに「総目次」―大川
周明に関する基礎的研究
の一環として―4 総目
次―3―
昭和思想史における倫理と
宗教―10―昭和知識人の国
家倫理と宗教
幕末維新期における来日外
国人の日本宗教政策観―特
にキリスト教をめぐって
明治維新と大嘗祭
国家神道の成立時期につい
て
西晋一郎の生涯

『七一雑報』における同志
社キリスト教思想の展開
内村鑑三とその思想
木下尚江における「超越」
の思想―中
米留学期における留岡幸
助―1
福士成豊と新島襄―福士の
新島宛書簡を中心として
新島襄の「私学」思想
明治期文明論の時間意識―
徳富蘇峰「将来之日本」
における明治日本の現在
大西祝とヘフディングの
「キエルケゴール」
梁川をめぐる人人―「回覧
集」を中心に―3
西田哲学と真宗について―
北陸における宗教の学
西田幾多郎の宗教論と歴史
論―深層の知・制度・弁証
法

山 田 芳 則
内 田 芳 明
高 橋 正 明
小 野 裕
関 秀 志
沖 田 行 司
小 宮 彰
北 野 裕 通
川 合 道 雄
橋 本 芳 契
中 村 雄 二 郎
杉 尾 玄 有

高坂史朗
中本昌年
広野好彦
赤松常弘
池尾恭一
柳原敦夫
刈田徹
峰島旭雄
山崎渾子
高木博志

関西学院哲学研
究年報 二一
紀要(富山大・
人文) 一二
法学論叢(京都
大) 一二―一六
人文科学論集
(信州大・人文)
紀要(東北大・
教養) 四七
桜美林エコノミ
ックス 一七
拓殖大学論集 一六四
早稲田商学 三二〇
聖心女子大学論
叢 七〇
日本史研究 三〇〇
紀要(東洋大・
教養) 二六
紀要(広島工業
大) 二二

西田哲学と道元禅

宗教研究 六一―一

Ernst
Lokowandt
堀田二郎

紀要(東洋大・
教養) 二六
紀要(広島工業
大) 二二

西晋一郎博士の神道哲学— 1	繩田二郎	神道学 一三三	天皇制と天皇	遠山茂樹	遠山茂樹編 『近代天皇制の 成立』
思想史からみた明治四年の 鷲塚騒動—石川台嶺の護法 思想について	石川勇吉	歴史評論四四九	天皇イデオロギーと西洋の 政治思想—幾つかの問題点	ピエール・ラヴ エル 入江宏和訳	政治経済史学 二五八
明治仏教と教育勅語—2 真宗僧東陽円月の場合	三宅守常	大倉山論集二二二	明治一〇年代の宗教政策と 井上毅	阪本是丸	国学院雑誌 八七一—一一
赤松連城の慈善観	高石史人	竜谷大学論集 四三〇	幕末日本の合衆国憲法学史事 始—福沢諭吉にいたるまで	遠藤泰生	思想 七六一
聖痕論—「瘧」を読む	佐々木重治郎	現代思想 一五—四	明治日本とその国際環境— 福沢諭吉のアジア観	シモン・ビン 内山秀夫訳	近代日本研究 (慶応大・福沢 研) 三
「まれびと」の諸相—八原 郷世界Vの形象をめぐつ て	佐藤正英	〃	天賦人權論と功利主義—小 野粹を中心に	荻原隆	名古屋学院大学 論集 人文・自 然科学篇 二四—一
折口信夫における境界観念	赤坂憲雄	〃	小野粹の統治機構論—共存 同衆とその政治思想—10	沢大洋	紀要(東海大・ 政治経済)一九
折口信夫の「神」—その戦 後の展開に即して	天艸一典	〃	自由民権運動と小野粹—馬 場辰猪の思想と比較	遠山茂樹	紀要(早稲田大 学・史)一九
自然と天然—上 漱石と鑑 三との場合	赤木善光	神学 四九	「愛国社路線」の再評価	坂野潤治	社会科学研究 (東京大) 三九—四
『夜明け前』の時代区分論	高橋章則	文芸研究一一六	三大事件建白運動と中江兆 民	松永昌三	歴史評論四五二
『月に吠える』前半の問題	渡辺和靖	日本思想史学 一九	民権派の社会党・虚無党論 —明治社会思想史の一齣	芝原拓自	経済科学(名古 屋大・経済) 三四—四
平林初之輔と「転向」—マ ルクス理解をめぐって	〃	愛知教育大学研 究報告 人文科 学 三六	河上肇の初期経済思想— 『日本尊農論』を中心と して	飯田鼎	三田学会雑誌 八〇—三
和辻美学に於ける劇的なも のと聖なるもの	原田熙史	紀要(法政大・ 教養) 六二			
近代天皇制国家試論	安田浩	藤田勇編 『権威的秩序と 国家』			

明治前期における田中正造の在村的近代化構想

安食文雄

国史学研究(龍谷大) 一三

田中正造における憲法と天皇

小松裕

論叢(熊本大・文) 二二

田中正造における明治憲法観の展開

由井正臣

『近代天皇制の成立』

石川三四郎『虚無の靈光』の思想

板垣哲夫

日本歴史四六六

石川三四郎(一八七六一—九五六)における思想的出生

〃

歴史(東北史学会) 六八

『新紀元』廃刊(明治三九年一月)後における石川三四郎の思想

〃

日本歴史四七〇

陸羯南の政治思想—日清戦前の時期を中心として—
1・2

本田逸夫

法学(東北大学法学会) 五一—二

日本におけるリベラリズムの一潮流—陸羯南・田口卯吉から長谷川如是閑へ—

田中浩

一橋論叢 九七—二

「政論記者」陸羯南の成立

松田宏一郎

法学会雑誌(都立大) 二八—一

北一輝の国家社会主義—1

長尾久

紀要(相模女子大) 五一

北一輝試論(上)(下)

清家基良

芸林 三六一—二

留岡幸助の政治思想

遠藤興一

明治学院論叢 四一六

朝鮮認識における幸徳秋水

石坂浩一

史苑 四六一—二

近代的婦人・家庭論の展開—堺利彦を中心として—

木下比呂美

歴史評論四四六

安部磯雄の非戦論

中村尚美

社会科学討究(早稲田大・社研) 三三—二

菅野須賀子論

吉田悦志

明治大学教養論集 二〇三

「農本主義」教育論者山崎延吉のナシヨナリズム論—日本における近代化への対応の一心性—

阿部茂

東北大学教育学部研究年報三五

高山樗陰小論

荻野富士夫

歴史評論四四六

大正期における「国民新聞」と徳富蘇峰

有山輝雄

成城文芸一一九

橋詰良一の生涯とその思想—大正期の社会事業—

富田好久

『文化史論叢』下

大杉栄の人間観

板垣哲夫

史学論集(山形大) 七

第一次大戦期のロシア革命論—雑誌『中外』と内藤民治の言論活動—

岩井忠熊

紀要(立命館大・人文科学研) 四三

大山郁夫の無産政党論—1・2完—

藤原保信

早稲田政治経済学雑誌 二九〇・二九一

大山郁夫研究序説

〃

社会科学討究(早稲田大・社研) 三三—二

野呂栄太郎と唯物弁証法—一九二〇年代における一般的状況のなかで—

岩崎允胤

日本の科学者 二二—六

第一次大戦後における教育問題と論壇—義務教育費削減問題と公教育について—の大山郁夫の論説を中心に

黎明会と福田徳三

水平社創立について

昭和九—一〇年の尾崎秀実—初期評論をめぐって

天皇と軍隊—その直屬意識の矛盾

国体論的歴史教育の浸透過程—一九三〇年代における歴史教育轉換の論理

日本フアンズムと大衆文化

歴史研究における民俗学と柳田学—最近の柳田国男研究に寄せて

神戸左翼文化運動史—戦旗社神戸支局を中心に

「文明の精神」と「独立」—丸山眞男著—「文明論之概略」を読む—によせて

荻原隆著『中村敬宇と明治啓蒙思想』

犬塚孝明著『森有礼』

菅井鳳展

紀要(立命館大・人文科学研究) 四三

中村勝範

法学研究(慶応大・法学研究会) 六〇—一

鈴木良

紀要(立命館大・人文科学研究) 四三

田中悦子

日本歴史四六六

大江志乃夫

日本史研究 二九五

土屋武志

上越社会研究(上越教大) 二

赤澤史朗

日本史研究 二九五

小沢誠一

歴史学研究 五六九

鈴木正次

歴史と神戸 二六—二

三谷太郎

思想 七五九

高橋昌郎

日本歴史四七三

中野目徹

史境 一四

井上順孝・阪本是丸著『日本型政教関係の誕生』

藤井貞文著『開国期基督教の研究』

鈴木範久著『内村鑑三—後世への最大遺物』

小沢三郎編『日本プロテスタント史史料(X)—基督教公許の建白(1)—』

関岡一成著『近代日本のキリスト教受容』

川田稔著『柳田国男の思想史的研究』

『日本の戦後社会と戦後思想—近代化—論的視座を中心に—』

水沢における山崎為徳資料—水沢教会収蔵資料を中心に—

大嘗祭・新嘗祭関係文献目録—昭和二〇年と昭和六二年六月—

補遺

古代祭祀制度の一考察—『神祇令』より『延喜式』にいたる—

「古事記」における皇位継承の思想と神代巻の論理—下—

森岡清美

宗教研究 六一—三

田中正弘

国学院雑誌 八八—二

鈴木皇

ソフィア 三六—二

杉井六郎

キリスト教社会問題研究 三五

葛井義憲

日本の神学二六

藤井隆至

新潟大学経済論集 四一・四二

渡辺宏

紀要(創価大・院) 九

高橋光夫

同志社談叢 七

加茂正典

神道史研究 三五—四

二宮正彦

末永先生米壽記念会編『末永先生米壽記念献呈論文集』

平野孝国

神道宗教一二四

「法華経」と日本文学—方便品をめぐって
今成元昭
立正大学文学部
論叢 八四

『難太平記』にみる今川了俊の思想(上)
寺田弘
今川氏研究会編
『駿河の今川氏』
八

キリシタン禁制下における「迫害と殉教」
清水紘一
キリスト教史学
四〇

日韓文化交流史の一断面—近世封建社会の朱子学と韓国(李朝時代)の關係
倉田康夫
紀要(中京大・文)
二一(二一一)

儒学の思想を通してみた中国と日本(講演)
尾藤正英
紀要(国学院大・日本文化研)
五八

近世初期藩校の成立に関する一考察
鈴木博雄
筑波大学教育学系論集一一—
一

荻生徂徠における祭政一致理念の創出
平田厚志
紀要(竜谷大・仏教文化研)
二五

朱子学者大槻磐溪の西洋観
梅澤秀夫
紀要(清泉女子大)
三四

佐藤一斎の思想1—その自然観
黒沢幸昭
山梨大学教育学部研究報告
三七

春日潜庵・池田草庵—筆蹟・人物・思想
木南卓一
紀要(帝塚山大)
二三

江戸時代における庶民教化理念としての忠孝道德の一考察
尾形利雄
上智大学教育学論集
二一

幕末日本における中国観の変化
日比野丈夫
論集(大手前女子大)
二〇

維新・文明開化と岡田良一郎の言論—日本の近代化と報徳主義—下
大藤修
歴史(東北史学会)
六七

「三酔人経綸問答」を読む—「奇人」伝説とエクリチュール
米原謙
下関市立大学論集
三〇—二

政教分離論と政教相關論
福島寛隆
紀要(竜谷大・仏教文化研)
二五

日本プロテスタント・キリスト教史の総合的研究(昭和二七—二九年度)
工藤英一
キリスト教史学
四〇

近代日本哲学における「弁証法」の受容—上
高坂史朗
紀要(近畿大・教養)
一八一—一

九鬼周造の哲学—1 「可能性」について
小浜善信
神戸外大論叢
三七—一—三

和辻「倫理学・中巻」の「初版」と「修正版」とを対比して—批判的論考—1
柳原敦夫
桜美林エコノミックス
一六

ト—2

発刊の辞

東北大学法文学部の開設とともに、故村岡典嗣氏を初代の主任教授として日本思想史学専攻が設立せられたのは大正十二年のことである。

昭和二十一年春、村岡氏が定年退官せられて後、後任者の得難きままに九年余を経て、昭和三十年に故竹岡勝也氏が就任せられた。しかし竹岡氏も在職二年にして定年退官せられ、一年を経て昭和三十三年に私が両教授の芳燭をけがすことになった。

本専攻の学部（第三・四年）は「日本思想史学専攻」として文学部史学科に属し、大学院（修士・博士課程）は「国文学国語学日本思想史学専攻」として文学研究科に属している。日本思想史学の独立の講座を基礎として、日本史（国史）専攻、乃至は国文学専攻または倫理学専攻とは別に、独立した「日本思想史学専攻」が設けられているのは、東北大学のみである。

以上の如き本専攻の歴史と現状に鑑み、関係者相い諮って、専攻専属の機関誌として、本誌を刊行し、その研究・教育の状況を学の内外に紹介することにした。大方の御援助を仰ぐ次第である。

昭和四十二年三月

石田 一 良

日本思想史研究 第二十二号

平成二年三月十五日 印刷
平成二年三月二十五日 発行

編集代表者 玉 懸 博 之

仙台市宮城野区日の出町二丁目四ノ二

印刷所 (株) 仙台共同印刷

仙台市青葉区川内

発行所 東北大学文学部

日本思想史学研究室

